

# 二宮町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査 調査結果報告書 概要

## 1. 調査の目的

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の見直しの基礎資料として、調査を実施しました。

## 2. 調査の設計

調査対象者：【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】65歳以上の要支援者等及び一般高齢者 700人  
 【在宅介護実態調査】在宅の要支援・要介護認定者 300人  
 調査期間：【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】令和2年3月9日～令和2年3月23日  
 【在宅介護実態調査】平成31年1月31日～令和2年5月18日  
 調査方法：郵送による発送・回収

## 3. 回収結果

アンケート	発送件数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	700	588	84.0%
在宅介護実態調査	300	300	100.0%
合計	1,000	888	88.8%

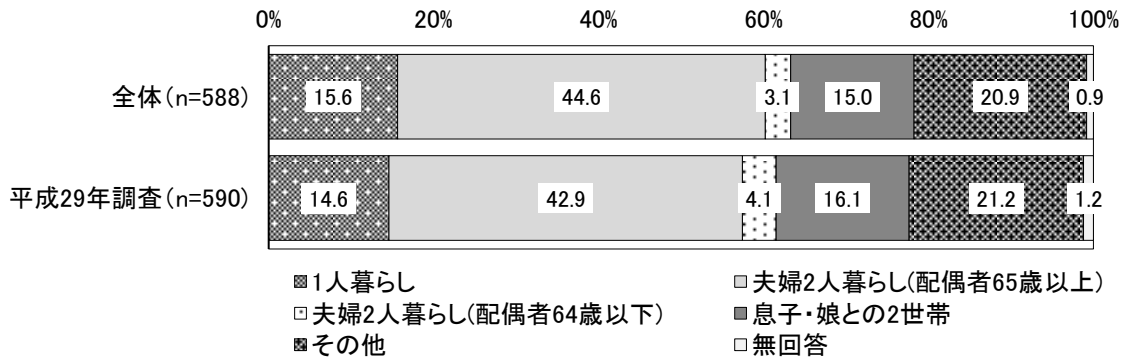
## 4. 報告書概要の見方

- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「未回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本概要は、報告書の内容を図表とともにまとめており、報告書に記載している図表等とは異なる場合があります。

# 1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

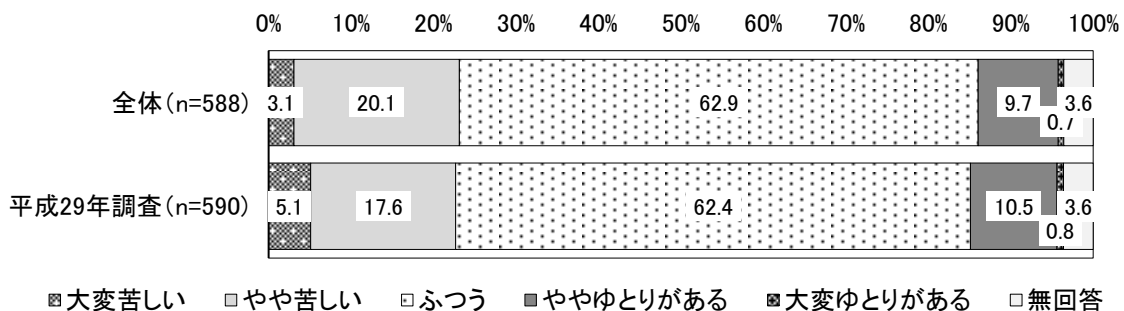
## 1. 自身の家庭や生活状況について

家族構成をみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が44.6%と最も高く、次いで「1人暮らし」の割合が15.6%、「息子・娘との2世帯」の割合が15.0%となっています。

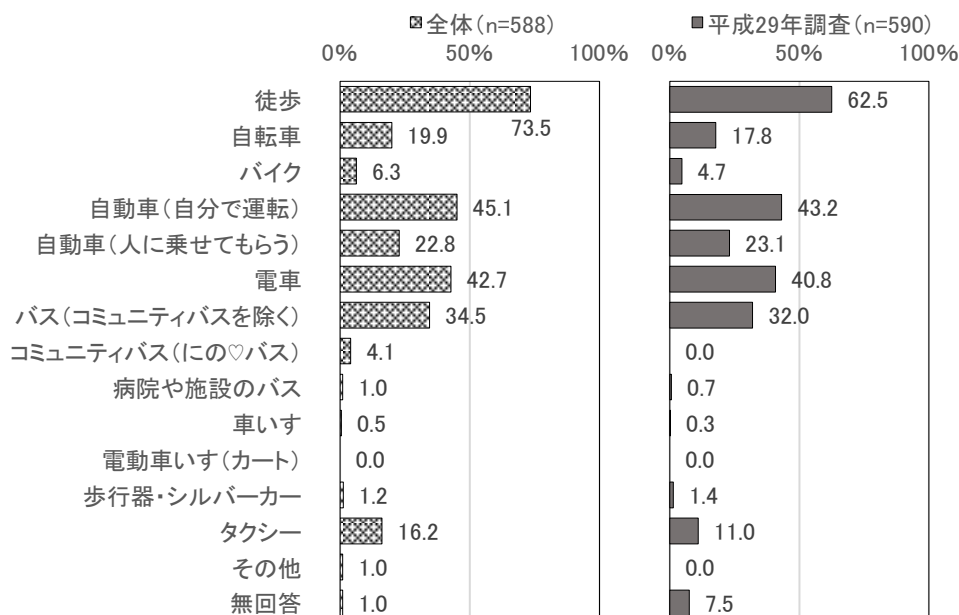


現在の暮らしの状況を見ると、「ふつう」の割合が62.9%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が20.1%、となっています。

平成29年調査と比べると「やや苦しい」の前回よりもやや高くなっています。



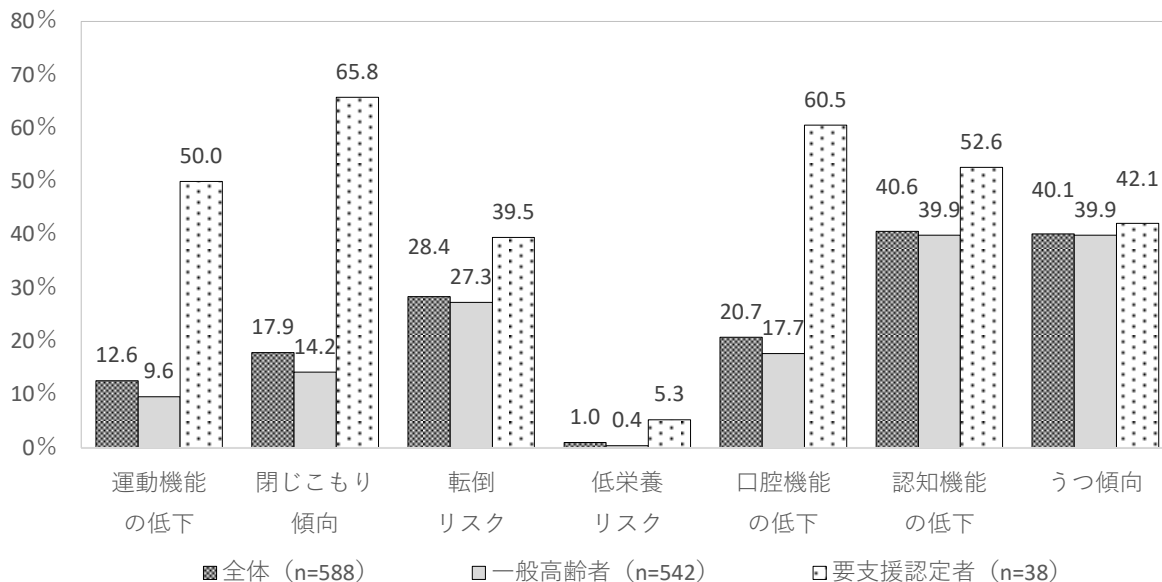
外出の手段をみると、「徒歩」の割合が73.5%と最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」の割合が45.1%、「電車」の割合が42.7%となっています。



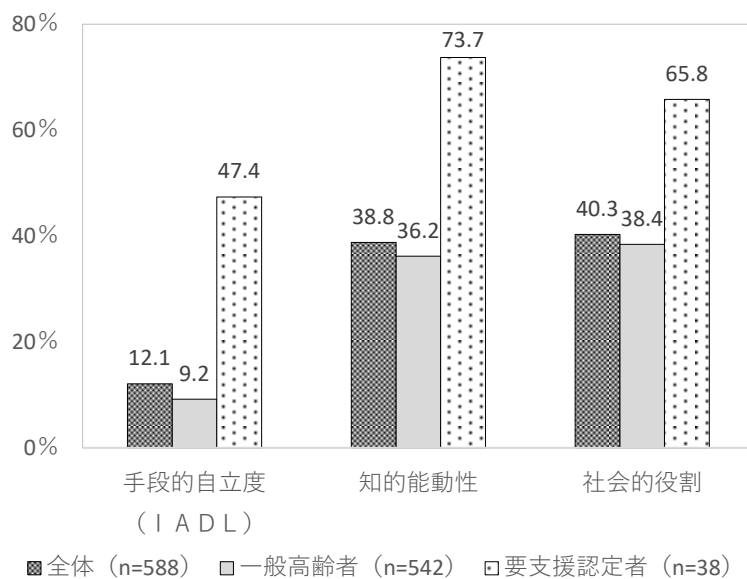
## 2. 高齢者のリスクについて

国の手引きに基づく高齢者の各種リスクの評価結果をみると、一般高齢者では、「認知機能の低下」と「うつ傾向」の割合が39.9%と最も高く、次いで「転倒リスク」の割合が27.3%となっています。

要支援認定者をみると、「閉じこもり傾向」の割合が65.8%と最も高く、次いで「口腔機能の低下」の割合が60.5%、「認知機能の低下」の割合が52.6%となっています。



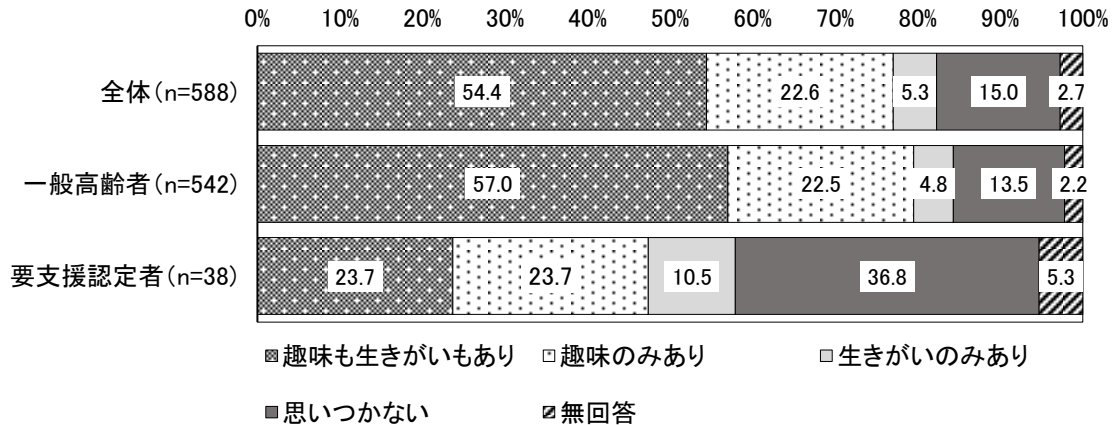
高齢者の高次の生活機能を評価することができる老健式活動能力指標の評価結果において、各指標で「低下」している一般高齢者の割合をみると、比較的高次の日常生活の動作ができる「手段的自立度」の低下者の割合は9.2%、情報を自ら収集して表現できる「知的能動性」の低下者の割合が36.2%、社会参加ができる「社会的役割」の低下者の割合が38.4%となっています。要支援認定者では、「手段的自立度」の低下者の割合は47.4%、「知的能動性」の低下者の割合が73.7%、「社会的役割」の低下者の割合が65.8%となっています。



### 3. 趣味・生きがい、社会参加等について

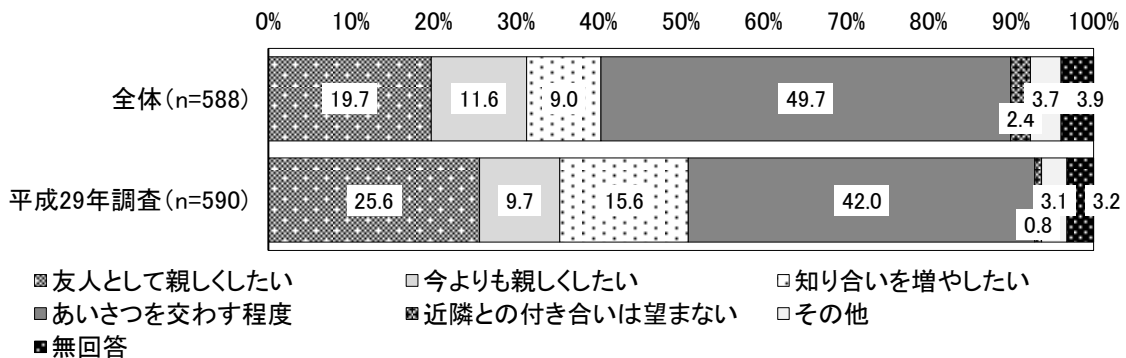
生きがいと趣味の有無について合わせて集計したところ、一般高齢者では、「趣味も生きがいもあり」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「趣味のみあり」の割合が 22.5%、「思いつかない」の割合が 13.5%となっています。要支援認定者では、「思いつかない」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「趣味も生きがいもあり」「趣味のみあり」の割合が 23.7%となっています。

「趣味も生きがいもあり」「趣味のみあり」「生きがいのみあり」の計『趣味・生きがいあり』の割合は、一般高齢者では 84.3%、要支援認定者では 57.9%と 26.4ポイントの差があります。



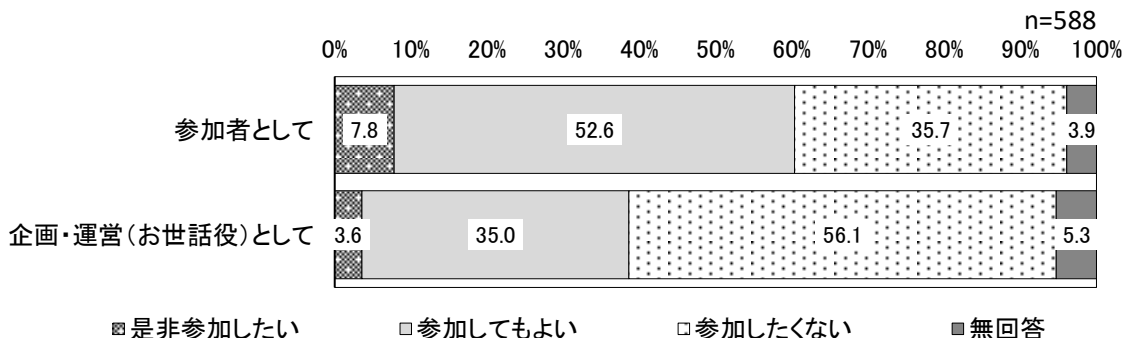
今後の近隣（近所）との関係については、「あいさつを交わす程度」の割合が 49.7%と最も高くなっています。

平成 29 年調査と比べると、「友人として親しくしたい」「知り合いを増やしたい」が低くなっています。



地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っていきいきとした地域づくりを進める場合、参加者として、「参加してもよい」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が 35.7%、「是非参加したい」の割合が 7.8%となっています。

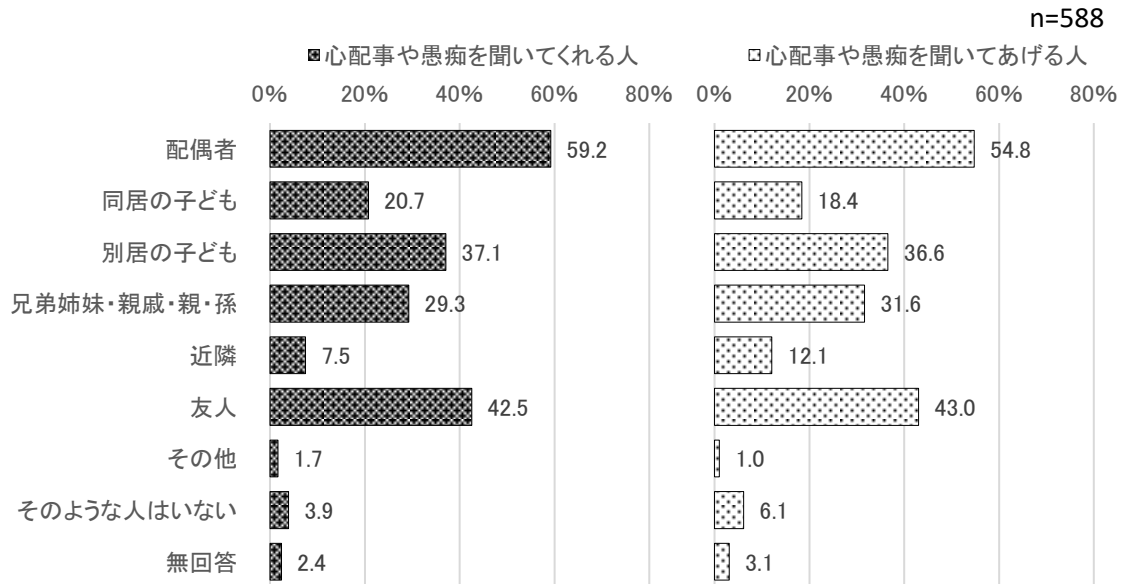
企画・運営（お世話役）としてでは、「参加したくない」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 35.0%、「是非参加したい」の割合が 3.6%となっています。



#### 4. あなたとまわりの人の「助け合い」について

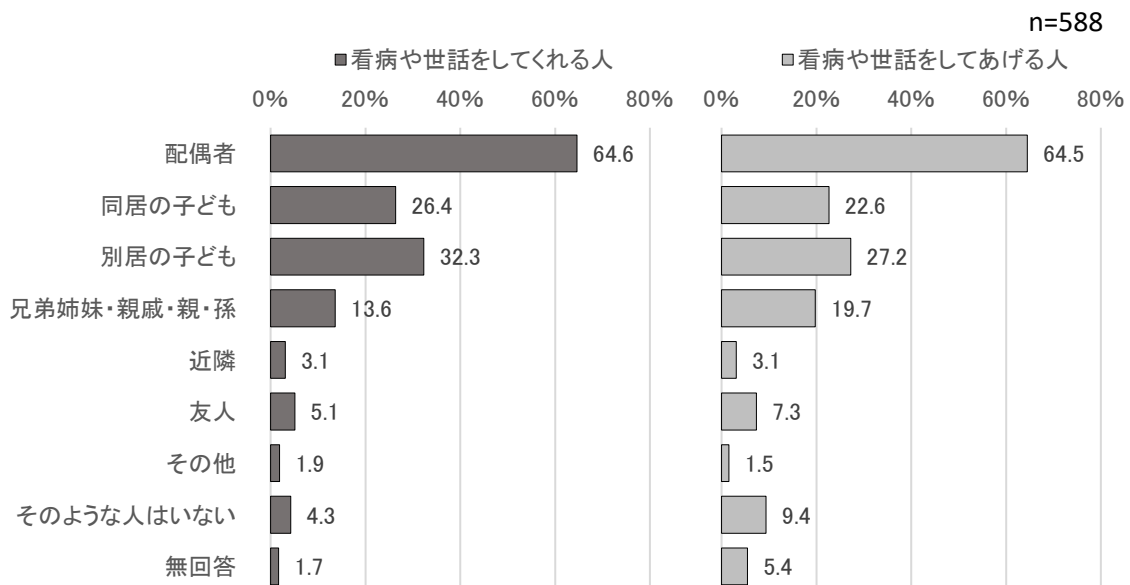
心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「友人」の割合が 42.5%、「別居の子ども」の割合が 37.1%となっています。

心配事や愚痴を聞いてあげる人についても、「配偶者」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「友人」の割合が 43.0%、「別居の子ども」の割合が 36.6%となっています。



看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」の割合が 64.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が 32.3%、「同居の子ども」の割合が 26.4%となっています。

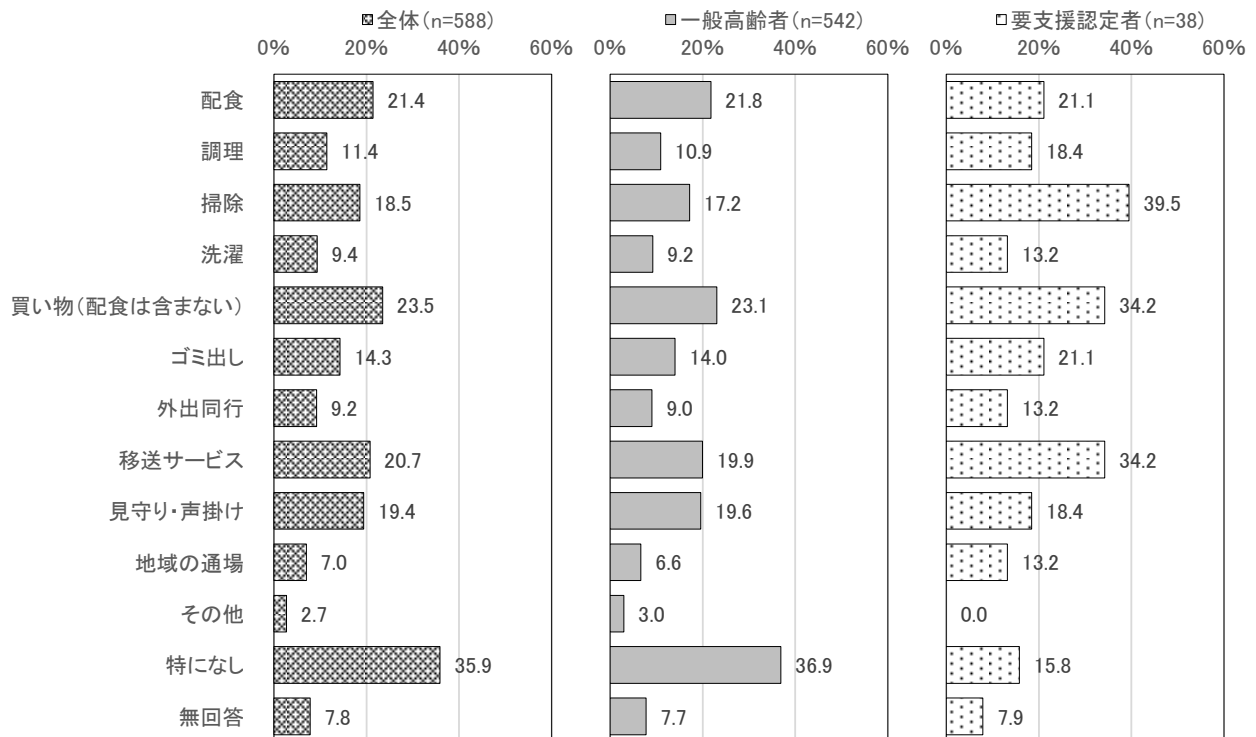
看病や世話をしてあげる人についても、「配偶者」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が 27.2%、「同居の子ども」の割合が 22.6%となっています。



## 5. 日常生活支援サービスについて

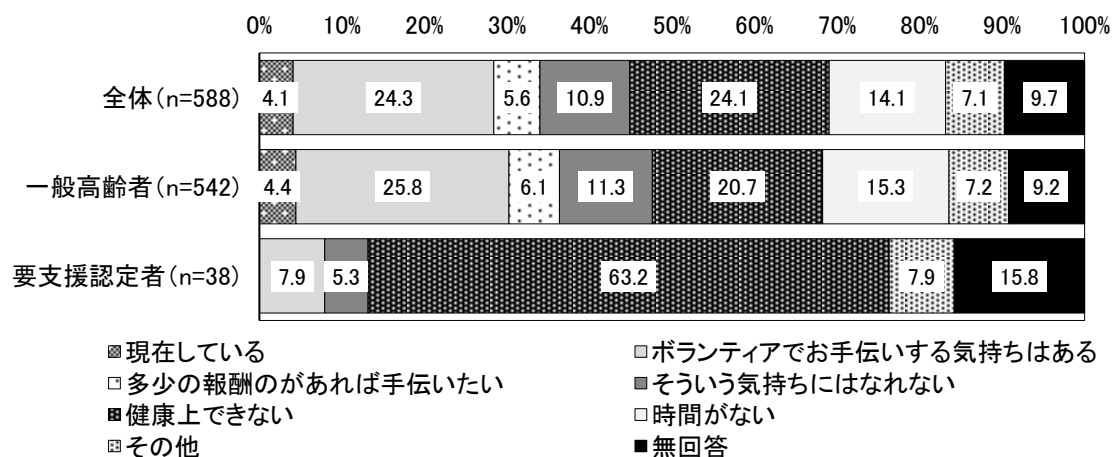
今後必要な支援サービスについては、一般高齢者では、「特になし」の割合が36.9%と最も高く、次いで「買い物（配食はふくまない）」の割合が23.1%、「配食」の割合が21.8%となっています。要支援認定者では、「掃除」の割合が39.5%と最も高く、次いで「買い物（配食はふくまない）」「移送サービス」が34.2%となっています。

要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「掃除」の割合が高くなっています。また、「特になし」の割合が低くなっています。



地域の高齢者が困ったときのお手伝いについては、一般高齢者では、「ボランティアでお手伝いする気持ちはある」の割合が25.8%と最も高くなっています。要支援認定者では、「健康上できない」の割合が63.2%と最も高くなっています。

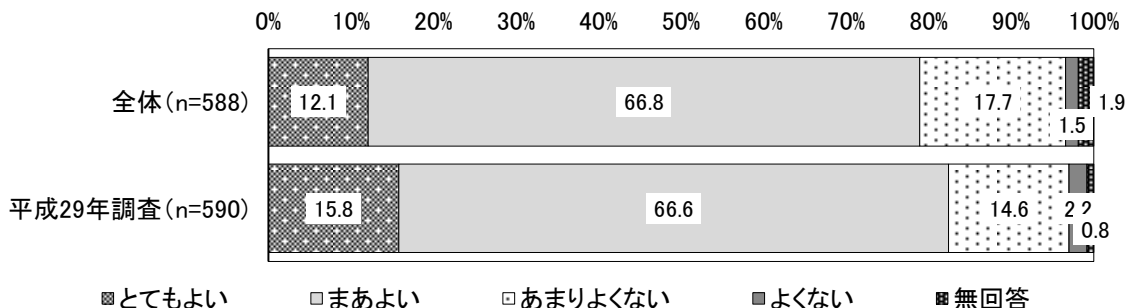
要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「健康上できない」の割合が高くなっています。



## 6. 健康について

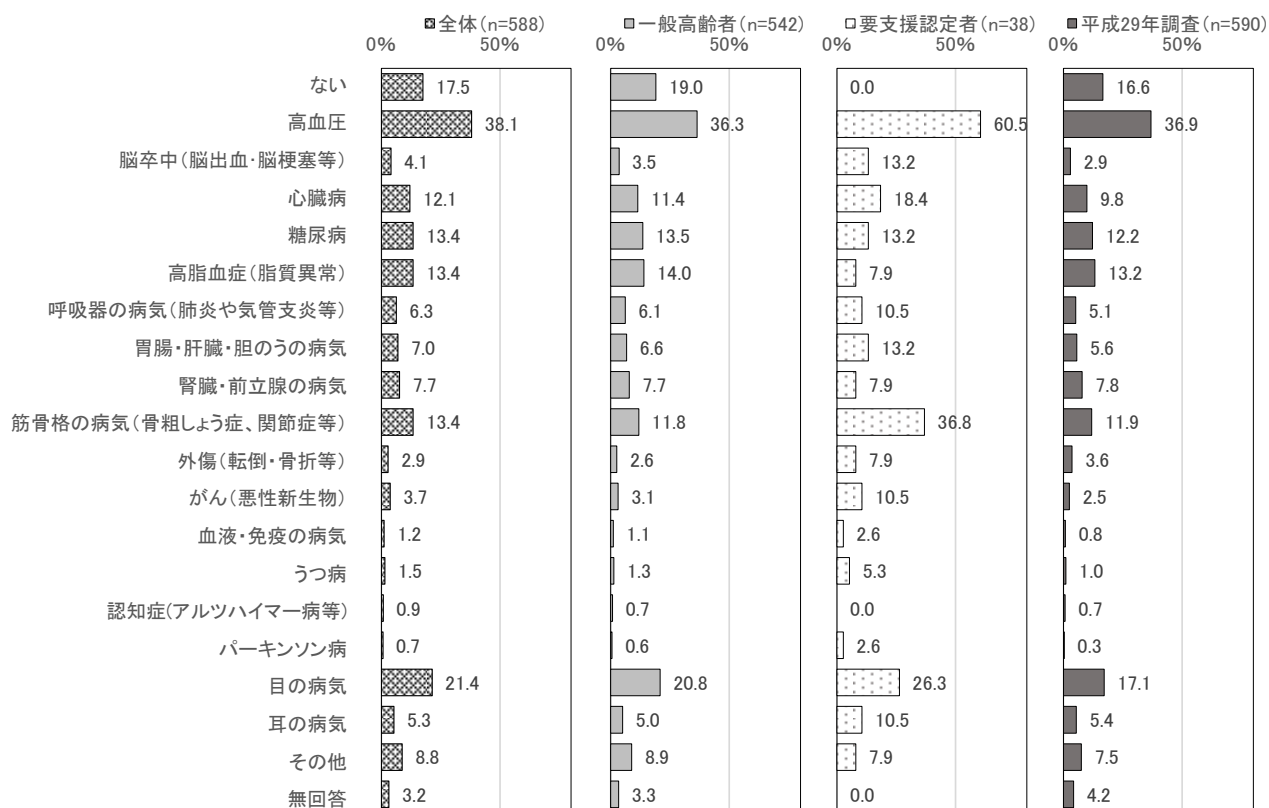
健康観については、「まあよい」の割合が66.8%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が17.7%、「とてもよい」の割合が12.1%となっています。

平成29年調査と比べると、「あまりよくない」の割合がやや高くなっています。



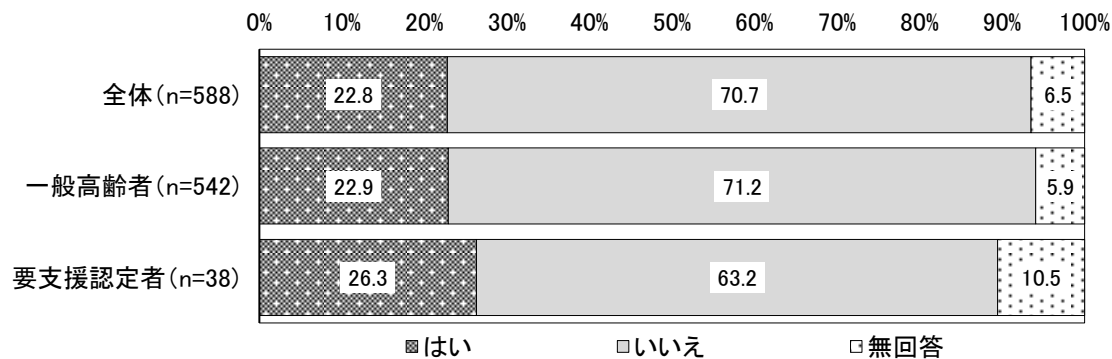
現在治療中、または後遺症のある病気については、一般高齢者では、「高血圧」の割合が36.3%と最も高く、次いで「目の病気」の割合が20.8%、「ない」の割合が19.0%となっています。要支援認定者でも、「高血圧」の割合が60.5%と最も高く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が36.8%、「目の病気」の割合が26.3%となっています。

要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「高血圧」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」等の割合が高くなっています。



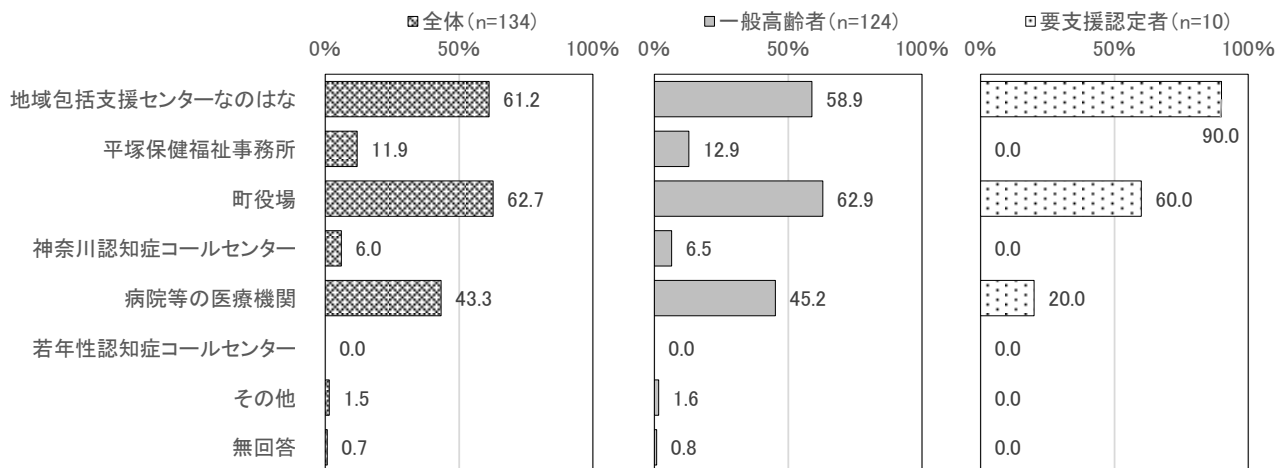
## 7. 認知症高齢者施策について

認知症に関する相談窓口の認知度をみると、一般高齢者では、「はい」の割合が22.9%、「いいえ」の割合が71.2%となっています。要支援認定者では、「はい」の割合が26.3%、「いいえ」の割合が63.2%となっています。要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「はい」の割合がやや高くなっています。



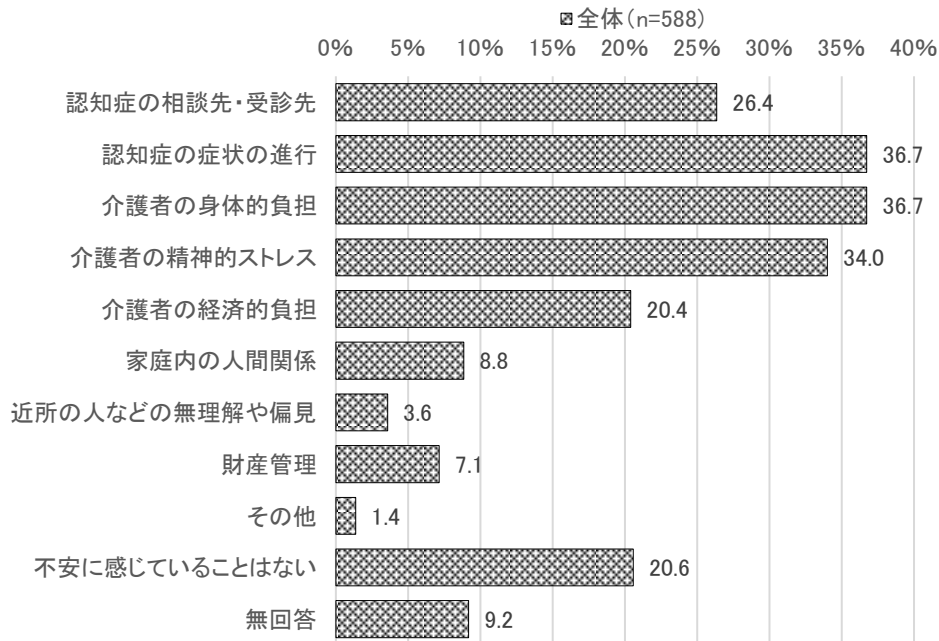
知っている認知症に関する相談窓口については、一般高齢者では、「町役場」の割合が62.9%と最も高く、次いで「地域包括支援センターなのはな」の割合が58.9%となっています。要支援認定者では、「地域包括支援センターなのはな」の割合が90.0%と最も高く、次いで「町役場」の割合が60.0%となっています。

要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「地域包括支援センターなのはな」の割合が高くなっています。

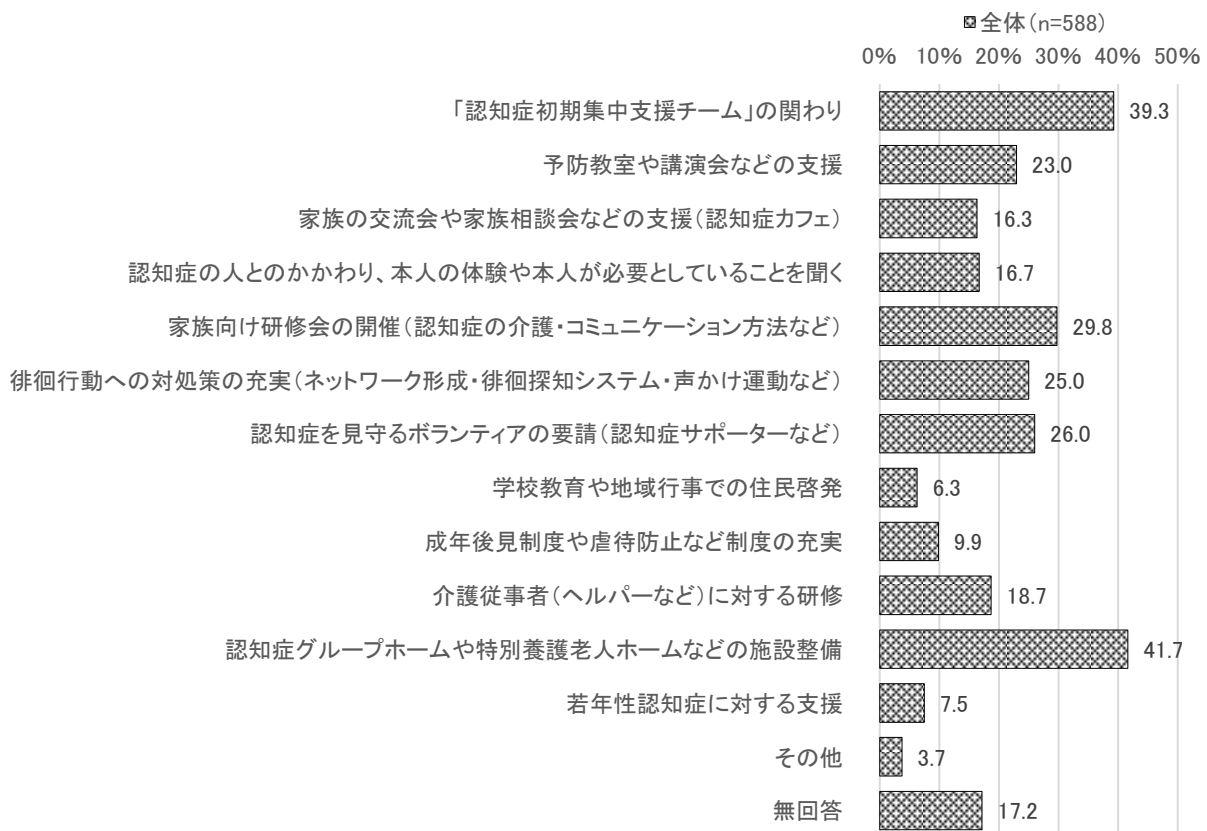




認知症で不安なことについては、「認知症の症状の進行」「介護者の身体的負担」の割合が36.7%と最も高く、次いで「介護者の精神的ストレス」の割合が34.0%となっています。



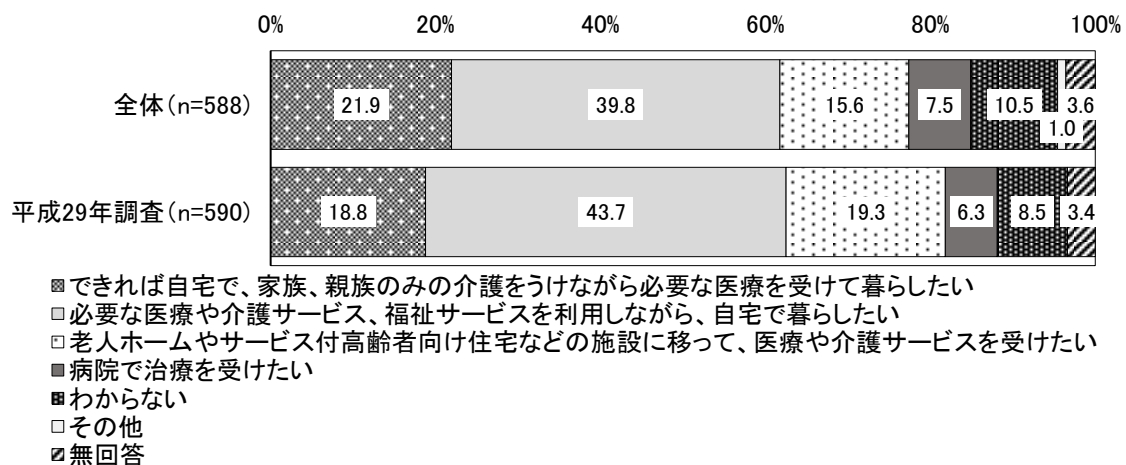
認知症対策を進めていくうえで重要なことについては、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」の割合が41.7%と最も高く、次いで「『認知症初期集中支援チーム』の関わり」の割合が39.3%、「家族向け研修会の開催（認知症の介護・コミュニケーション方法など）」の割合が29.8%となっています。



## 8. 在宅医療と看取りについて

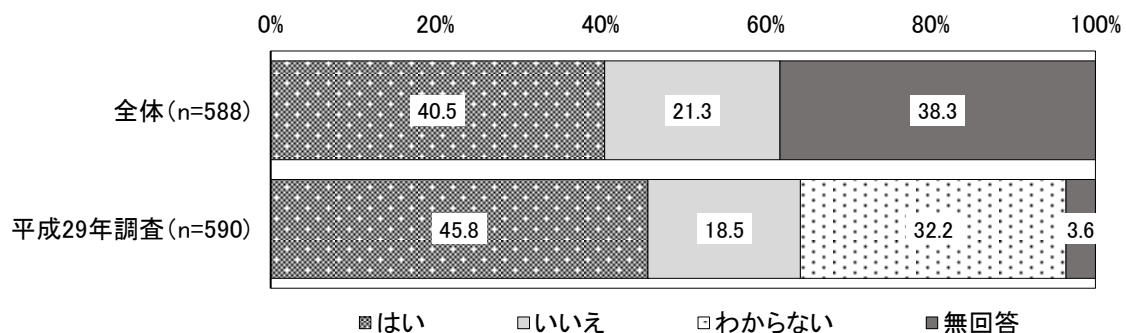
介護や医療が必要になった場合の暮らしについては、「必要な医療や介護サービス、福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」の割合が39.8%と最も高く、次いで「できれば自宅で、家族、親族のみの介護をうけながら必要な医療を受けて暮らしたい」の割合が21.9%、「老人ホームやサービス付高齢者向け住宅などの施設に移って、医療や介護サービスを受けたい」の割合が15.6%となっています。

平成29年調査と比べると、「できれば自宅で、家族、親族のみの介護をうけながら必要な医療を受けて暮らしたい」の割合は高く、「必要や医療や介護サービス、福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」と「老人ホームやサービス付高齢者向け住宅などの施設に移って、医療や介護サービスを受けたい」の割合は低くなっています。



自宅で最期を迎えたいかについては、「はい」の割合が40.5%、「いいえ」の割合が21.3%となっています。

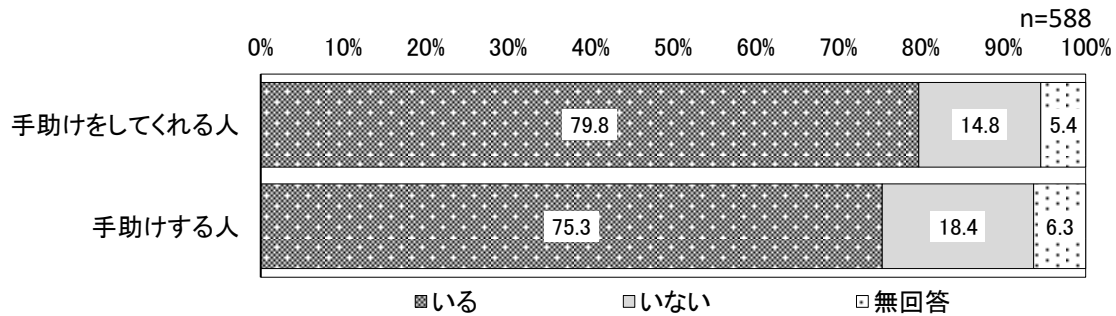
平成29年調査と比べると、「はい」の割合が低くなっています。



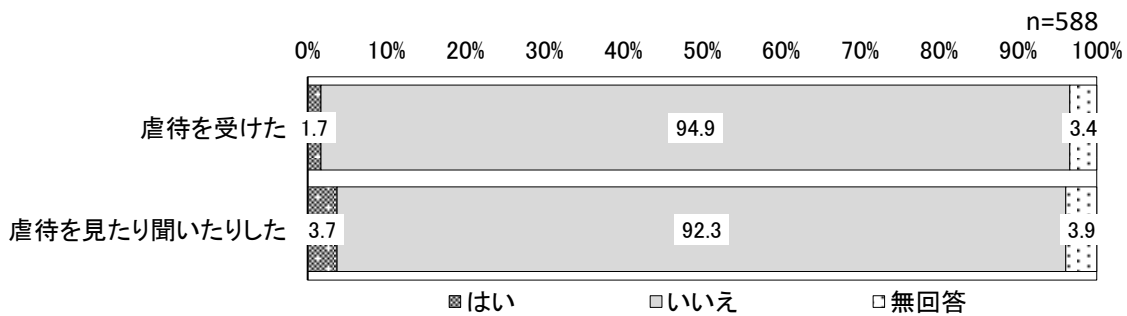
## 9. 災害、虐待等について

災害時や緊急時に身近で手助けをしてくれる人については、「いる」の割合が79.8%、「いない」の割合が14.8%となっています。

一方、災害時や緊急時に身近で手助けする人については、「いる」が75.3%、「いない」が18.4%となっています。

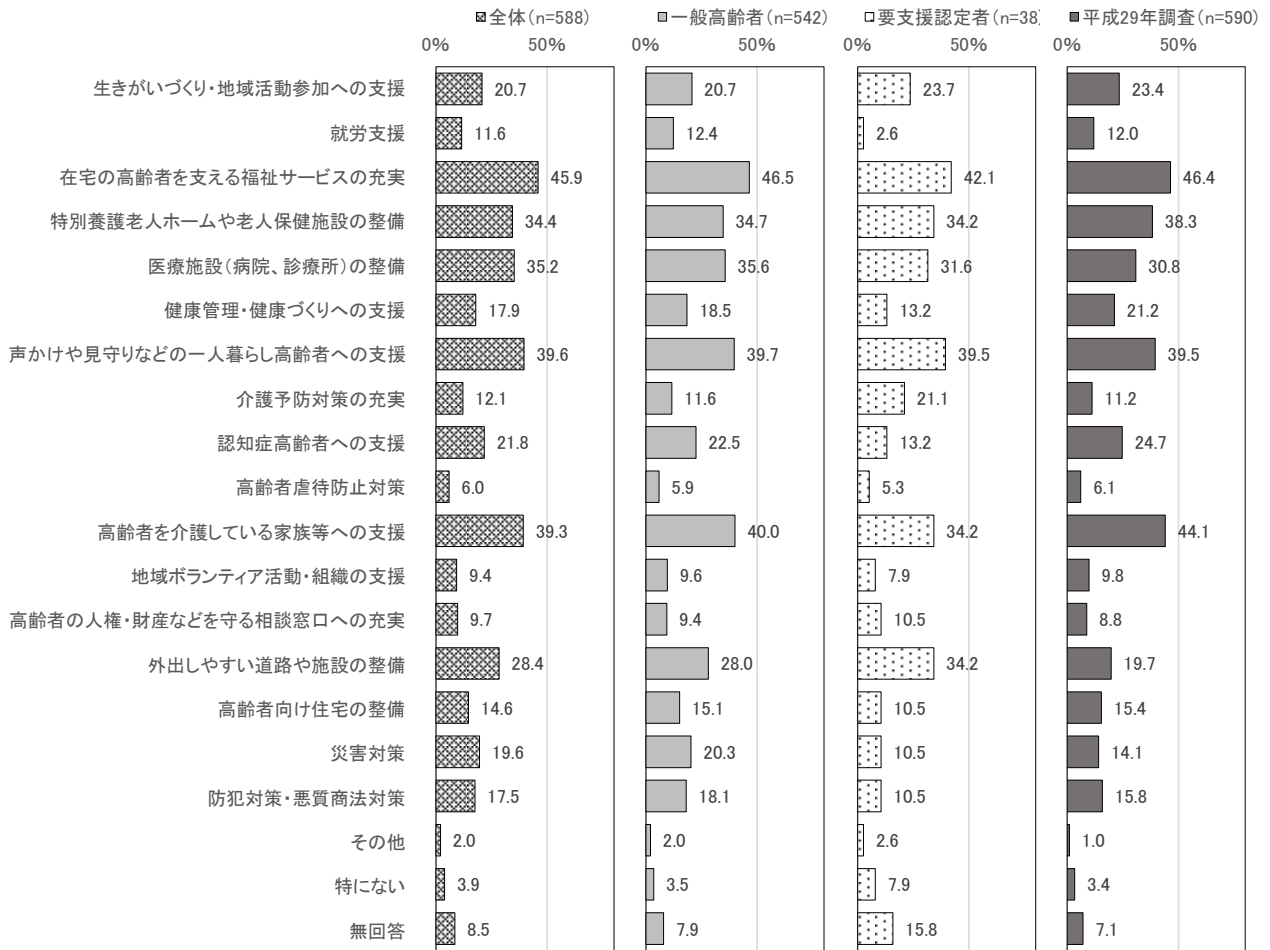


虐待を受けたことについては、「ある」の割合が1.7%、「ない」の割合が94.9%となっています。虐待を見たり聞いたりしたことでは、「ある」の割合が3.7%、「ない」の割合が92.3%となっています。



高齢者福祉施策全般について町が取り組むべき施策としては、一般高齢者では、「在宅の高齢者を支える福祉サービスの充実」の割合が46.5%と最も高く、次いで「高齢者を介護している家族等への支援」の割合が40.0%、「声かけや見守りなどの一人暮らし高齢者への支援」の割合が39.7%となっています。要支援認定者でも、「在宅の高齢者を支える福祉サービスの充実」の割合が42.1%と最も高く、次いで「声かけや見守りなどの一人暮らし高齢者への支援」の割合が39.5%、「特別養護老人ホームや老人保健施設の整備」「高齢者を介護している家族等への支援」「外出しやすい道路や施設の整備」の割合が34.2%となっています。

要支援認定の有無別でみると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「生きがづくり・地域活動参加への支援」「介護予防対策の充実」「高齢者の人権・財産などを守る相談窓口の充実」「外出しやすい道路や施設の整備」の割合が高くなっています。

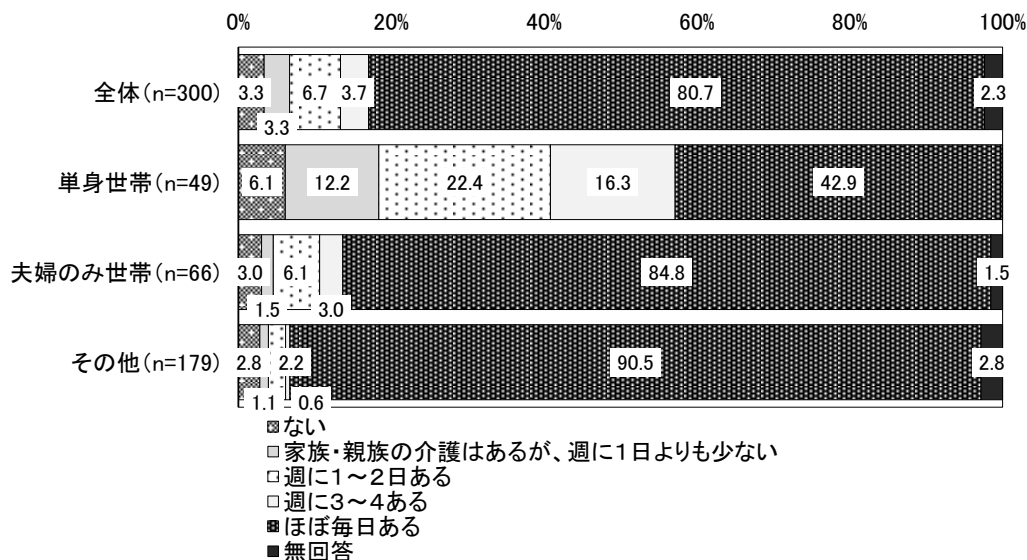


## 2 在宅介護実態調査

### 1. A票 自身の家庭や生活状況について

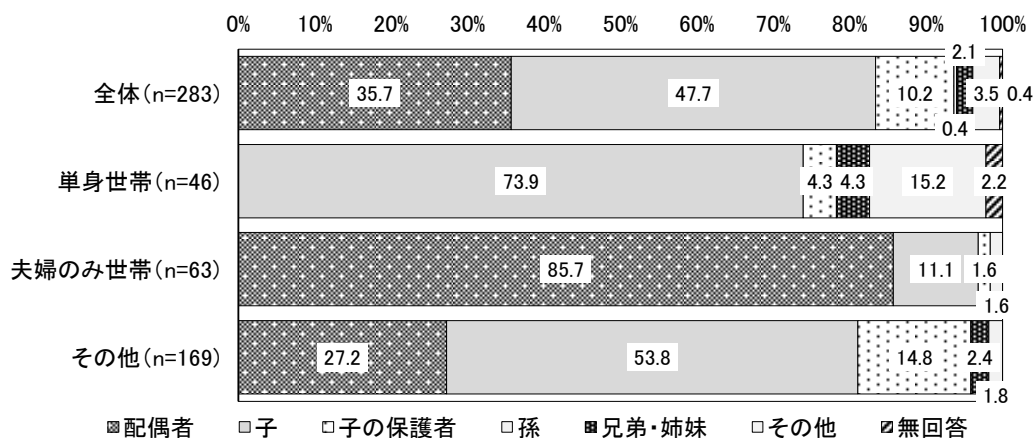
家族や親族からの介護の頻度は、全体として「ほぼ毎日ある」の割合が80.7%と最も高く、次いで「週に1～2日ある」の割合が6.7%となっています。

世帯類型別でみると、単身世帯では、「ほぼ毎日」の割合は42.9%と最も高いですが、他の世帯類型と比べて低く、「ほぼ毎日」以外の項目の割合が高くなっています。



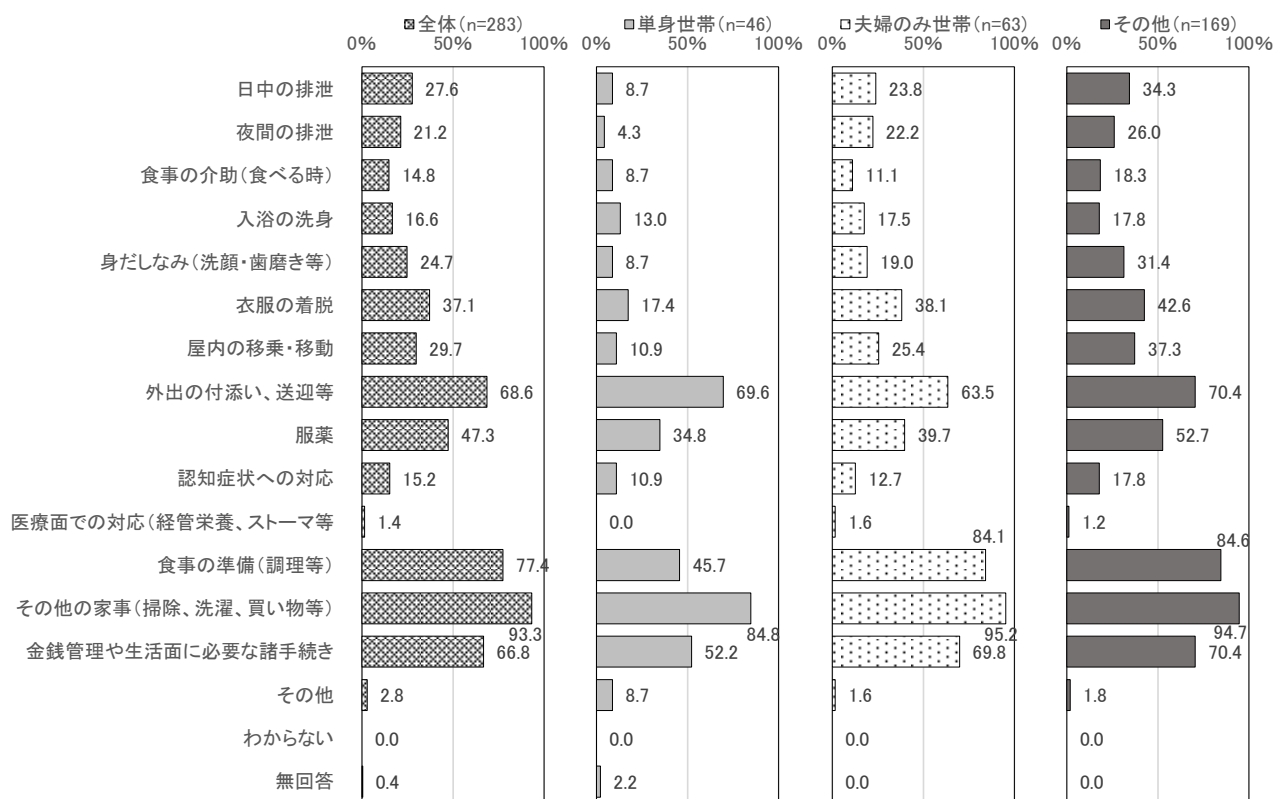
主な介護者は、全体として「子」の割合が47.7%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が35.7%となっています。

世帯類型別でみると、単身世帯では、「子」の割合は73.9%、夫婦のみ世帯では「配偶者」が85.7%と他の世帯類型よりも高くなっています。



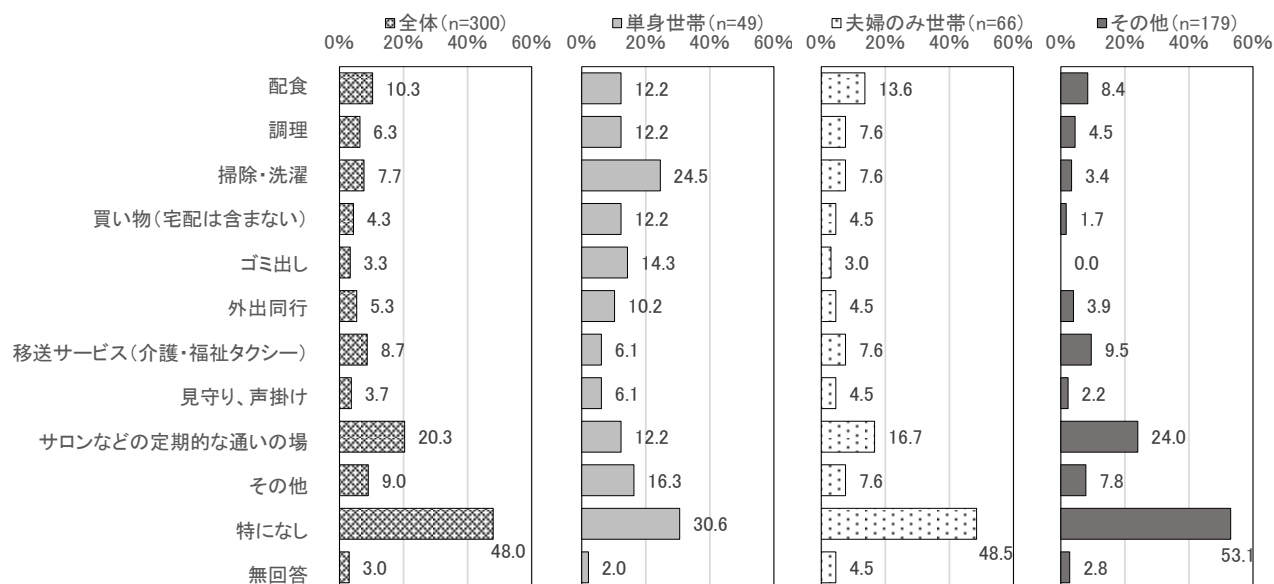
主な介護者が行っている介護等については、全体として「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が93.3%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」の割合が77.4%、「外出の付添い、送迎等」の割合が68.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が66.8%となっています。

世帯類型別でも、同様の割合となっています。



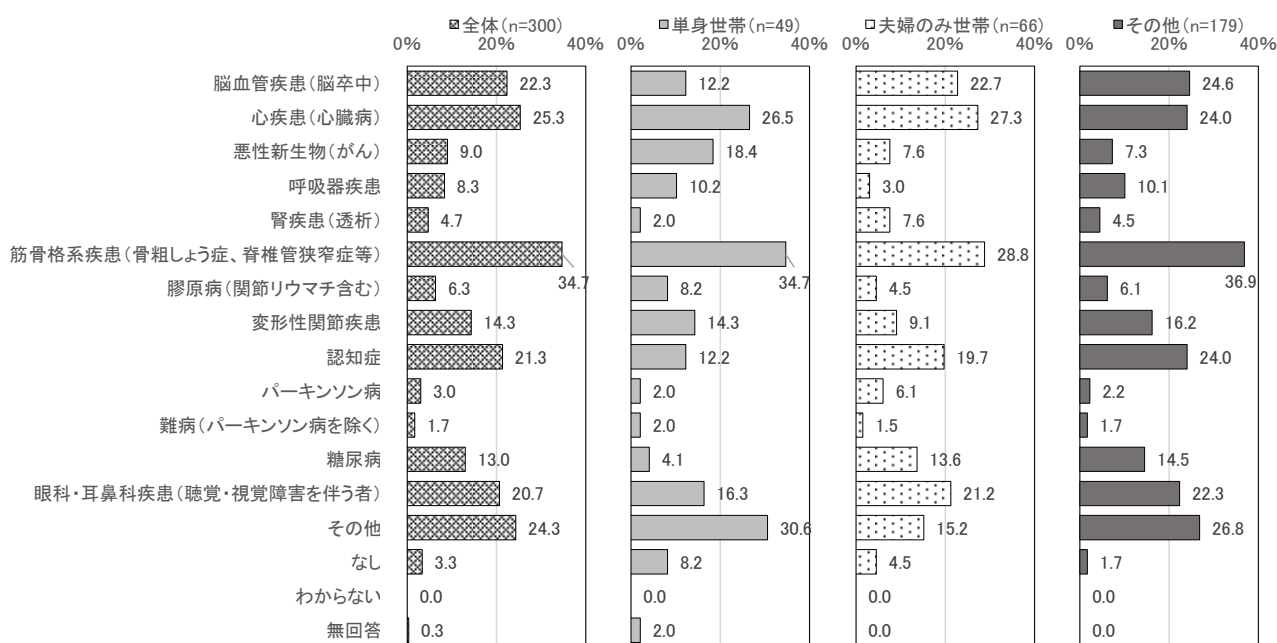
今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービスについては、全体として「特になし」の割合が48.0%と最も高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が20.3%となっています。

世帯類型別で見ると、単身世帯では、全体の割合と比べほぼ全ての項目の割合が高くなっています。「特になし」の割合が30.6%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」の割合が24.5%となっています。夫婦のみ世帯とその他は全体の割合も同様の割合となっています。



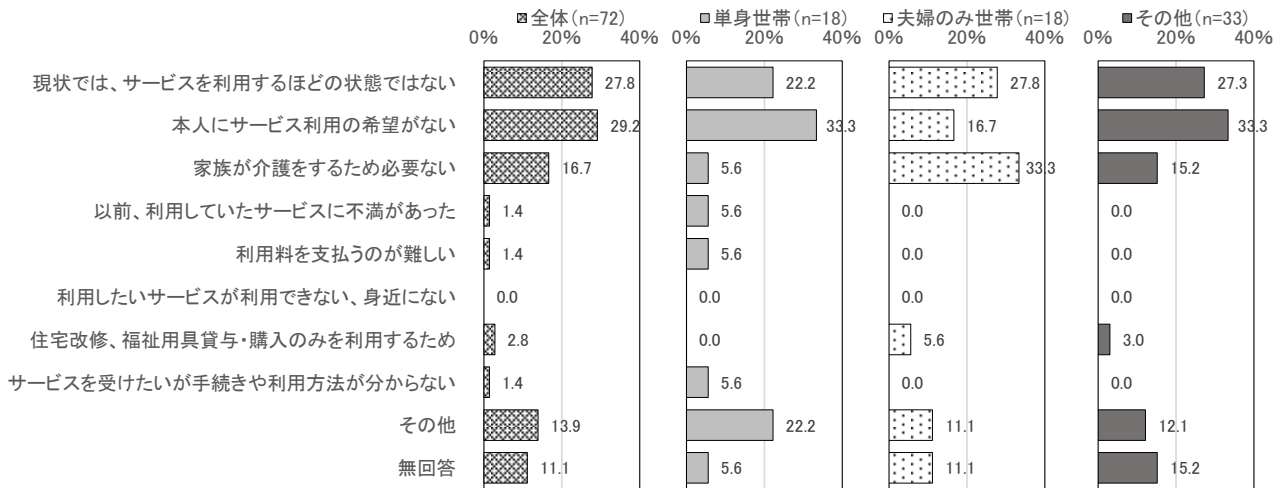
現在抱えている傷病については、全体として「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」の割合が34.7%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」の割合が25.3%、「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が22.3%となっています。

世帯類型別でも、単身世帯では、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」の割合が34.7%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」の割合が26.5%、「悪性新生物（がん）」の割合が18.4%となっています。夫婦のみ世帯でも、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」の割合が28.8%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」の割合が27.3%、「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が22.7%となっています。その他世帯でも、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」の割合が36.9%と最も高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が24.6%、「心疾患（心臓病）」「認知症」の割合が24.0%となっています。



介護サービスを利用していない方で、介護保険サービスを利用していない理由としては、全体として「本人にサービス利用の希望がない」の割合が29.2%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が27.8%、「家族が介護をするため必要ない」の割合が16.7%となっています。

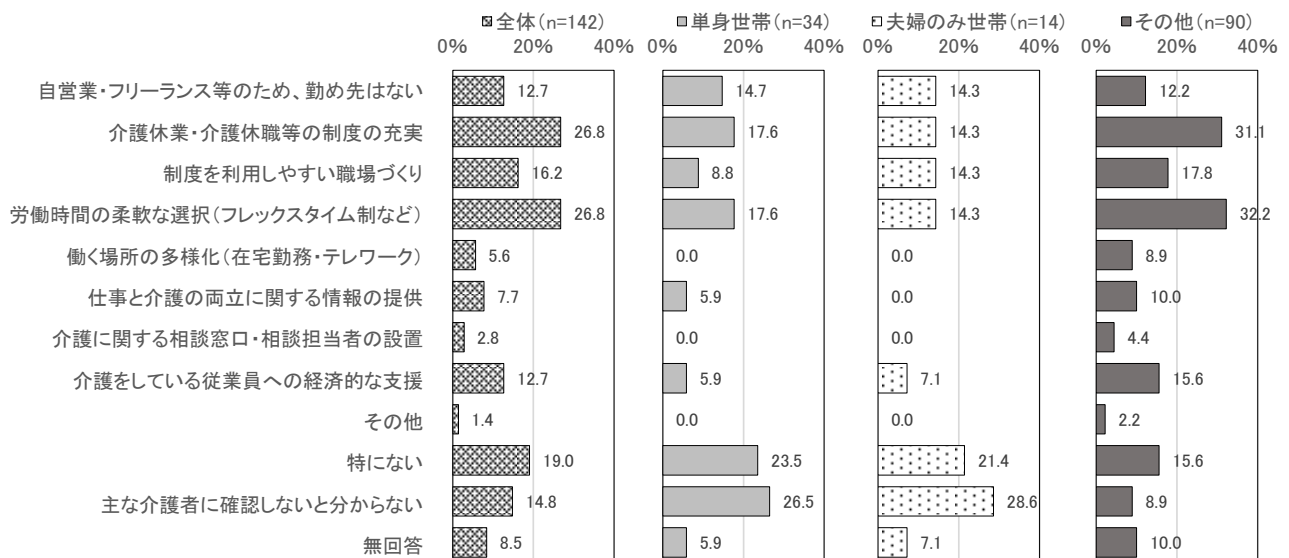
世帯類型別でみると、単身世帯でも、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が22.2%となっています。夫婦のみ世帯では、「家族が介護をするため必要ない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が27.8%、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が16.7%となっています。その他では、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が27.3%、「家族が介護をするため必要ない」の割合が15.2%となっています。



## 2. B票 主な介護者の方について

主な介護者が就労している方で、仕事と介護の両立に効果がある支援としては、全体として「介護休業・介護休職等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が26.8%と最も高く、次いで「特にない」の割合が19.0%となっています。

世帯類型別でみると、単身世帯では、「特にない」の割合が23.5%と最も高くなっています。夫婦のみでも、「特にない」の割合が21.4%と最も高くなっています。その他では、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が32.2%と最も高く、次いで「介護休業・介護休職等の制度の充実」の割合が31.1%となっています。





主な介護者が現在の生活を継続していくにあたって不安を感じる介護については、全体として「屋内の移乗・移動」の割合が24.7%と最も高く、次いで「不安を感じていることは、特にない」の割合が19.0%、「入浴の洗身」の割合が15.3%となっています。

世帯類型別で見ると、単身世帯では、「屋内の移乗・移動」の割合が28.6%と最も高く、次いで「入浴の洗身」の割合が20.4%、「夜間の排泄」「認知症状への対応」の割合が16.3%となっています。夫婦のみ世帯では「不安を感じていることは、特にない」の割合が22.7%と最も高く、次いで「屋内の移乗・移動」の割合が21.2%、「認知症状への対応」の割合が15.2%となっています。その他では、「屋内の移乗・移動」の割合が25.1%と最も高く、次いで「不安を感じていることは、特にない」の割合が20.7%、「日中の排泄」の割合が17.9%となっています。

